

研究・調査報告書

報告書番号	担当
513	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol consumption and 24-hour urinary levels of melatonin in postmenopausal women. 閉経後女性での中等度アルコール摂取とメラトニン 24 時間尿中レベル	
執筆者	
Hartman TJ, Mahabir S, Baer DJ, Stevens RG, Albert PS, Dorgan JF, Kesner JS, Meadows JW, Shields R, Taylor PR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Endocrinol Metab. 97(1):E65-68 (2012)	
キーワード	
エタノール、メラトニン、乳がん	
要旨	
<p>背景： 閉経後の女性では、終夜の尿中メラトニン代謝物濃度低下が乳がんの危険性上昇と関係していることが知られている。先に、閉経後女性アルコール研究において、血清ならびに尿ホルモンレベルとその生物マーカーなどを含めた乳がん発症危険要因に関する中等度アルコール摂取の影響について検討した。その結果では、アルコールの1日あたり15あるいは30 g (1 または 2 標準飲酒量) の消費で血清中の硫酸エストロンと硫酸デヒドロエピアンドロステロン濃度が上昇することを見出され、閉経後の女性のアルコール摂取がホルモンレベルに影響する可能性が考えられた。</p> <p>目的： 本研究では、アルコール摂取がメラトニン代謝に影響するかどうか、アルコール消費と24時間尿中6-sulfatoxymelatonin (メラトニン代謝産物、6-SMT) 濃度の相関関係について評価した。</p> <p>方法： 健康な閉経後の女性51名を3つグループに分け、8週間体重を維持する条件下で、調整された食事に①アルコール非摂取、②1日あたり15 g、または③30 gのアルコールの摂取を実施した。研究開始時(基礎値)、4週間、8週間の時点で、24時間採取した尿中の6-SMT濃度を測定した。</p> <p>結果： 肥満度(BMI)、睡眠時間、日中活動時間、6-SMT基礎値で補正した結果の解析で、6-SMTの濃度はアルコールによって影響されなかった。</p> <p>結論： 健康な閉経後の女性での少量から中等度のアルコール消費は、24時間尿中メラトニンレベルに有意な影響を与えず、乳がん発症危険性上昇には関係しないものと考えらる。</p>	